

平成24年度事業計画書

(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟

(概要)

- (1) 平成20年12月1日施行された新公益法人制度により、社団法人である当連盟も平成25年11月30日までに移行手続きをする必要があり、新公益法人対策委員会(委員長:中川二郎理事)の答申案に基づき、平成23年10月度理事会において、「非営利型の一般社団法人として内閣府に認可申請手続きをすることが決議されました。

新法人としての準備段階となる当連盟の平成24年度事業計画としては、連盟の諸活動の内容、特に大会等の開催についての方針を見直すこととしました。

平成24年2月18日開催の平成23年度第二回通常総会で上記理事会の決議の承認を頂いて内閣府に認可申請手続きに入り、平成25年4月1日に新法人として再発足を目指します。

- (2) 当連盟主催或いは共同主催の大会については、5月ゴールデンウィークには「日本少年少女オープンヨット大会」、6月第2週には「ジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会(中海・宍道湖ラムサール条約記念全国大会)」、8月初めには「国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会」、9月には「ジュニアヨット国際親善レガッタ(ミキハウスカップ)」を例年実施して参りました。

OP級を中心とする他のいろいろな大会が毎週連続する7月、8月の時期には、参加者の負担も勘案して、本年度からは、この時期の当連盟の大会の開催を見合わせることにし、又、学校行事、開催場所等の関係から選手が参加し難い6月第2週のジュニアヨット・クリーンエコセーリング大会は共同主催することをやめて、地元主催に対しての後援をすることとします。

以上の見直しの結果、従来5月ゴールデンウィークに開催していた「日本少年少女オープンヨット大会」は開催しないことにし、同じ時期に、「国際交流 日本ジュニアヨットクラブ競技会」を開催します。その参加資格等開催方法についても新しい工夫により、参加し易い大会を検討します。

又、本年度は2020年夏季オリンピック・パラリンピック大会の東京招致支援活動として、財団法人日本セーリング連盟、東京都ヨット連盟との共同主催により東京都若洲ヨット訓練所において、「2020東京オリンピック・パラリンピック招致ウィーク」の中での競技会開催とし、一般都民、マスコミ等に広く呼びかける企画も計画します。

一方、8月初めには、従来のようなレースを中心とするヨット大会ではなく、ヨットの初心者から兄弟友人その保護者家族を含めた皆さんでヨットだけではなく、海や湖等の大自然に親しむキャンプのような大会を企画したいと考えています。開催場所を含めて早急に具体案を提示したいと思います。

東京都若洲ヨット訓練所で長年継続開催している「ジュニアヨット国際親善レガッタ（ミキハウスカップ）」を本年度から大阪市大阪北港ヨットハーバーでも開催することとします。東京と大阪での同年度開催を計画します。

- (3) 昨年度は「登録クラブ代表者との意見交換会」を、東京で2回開催しましたが、今年度の活動としては、この意見交換会をいろいろな水域毎に登録クラブの代表者、指導者の皆さんに集まって頂いて開催することによりお互いにより連携を強める活動や、個々の各登録クラブへの訪問により意見交換をする等の活動を計画しています。
- (4) 指導者研修会の開催やユースセーリングの発行、ホームページの一層の充実を通じて、全国の会員への迅速な情報提供やクラブ運営の相談や情報交換等が積極的に行われるように努力します。

ユースセーリングも、正会員であるクラブ代表者に送付するだけでなく、登録クラブから提出されたジュニアセーラー名簿の子供たち一人ひとりに行き渡るように必要部数を送付するようにします。

- (5) 厳しい一般経済環境の中で、限られた資金の効果的な運用と事務及び事業経費の節減を図っていく所存ですので、正会員の皆さんには年会費の早めの納入をお願いすると共に、正会員が代表する各登録クラブに平成22年度より新しくお願いしている登録クラブの負担金についてのご理解を頂き、当連盟の発展のため引き続きのご協力をお願い致します。

(部門別詳細)

1. 総務関係部門

(1) 新会員の勧誘（総務委員会/普及渉外委員会/財務委員会）

- (イ) 引続き、B & G財団との協力関係を維持し、財団傘下の海洋クラブの当連盟主催各競技会への参加を呼びかけて頂くと同時に、クラブの代表者の当連盟への入会とクラブの登録の勧誘を継続的に図ることを努力します。
各競技会開催の機会を含め、クラブへ入るジュニアセーラーの増加や新規クラブの当連盟登録の促進に努力し、又、活動休止中或いは不活発なクラブへの支援に努力します。

(平成24年2月18日現在活動中57クラブ、休会22クラブ)

尚、クラブの代表者以外の正会員は、理事12名、監事2名、その他の方2名の合計16名ですので、正会員総数は73名です。(平成24年2月18日現在)

- (ロ) デフレ景気の継続する経済状況で、賛助会員の新たな加入勧誘は極めて難しい状況が続いております。現在の賛助会員は「株式会社ライフサイエンス研究所」と「アサヒグループホールディングス株式会社」の2社のみです。
引き続き新しい賛助会員や協賛会社のご支援の獲得に努力をします。
正会員並びに各登録クラブにおいてもそれぞれの地域で、種々アイデアを提案願ひ、企業や個人への呼びかけや各地での勧誘活動にもご協力をお願い致します。

- (2) 昨年度から、定款細則附則によって、登録クラブの負担金額を所属ジュニアセーラーの人数に応じた金額に決定して、各登録クラブには所属するジュニアセーラーの名簿提出と負担金の納入をお願いしていますが、これは所属選手の連盟主催の大会、競技会への参加、不参加に拘らず、連盟の年間の諸活動の維持、運営の為に各登録クラブをお願いしているものであることにご理解を頂き、ご協力をお願いします。

2. 指導育成関係部門

(1) 指導員育成事業(指導育成委員会/競技委員会)

- (イ) 指導者研修会を実施します。(年1回、2月通常総会時に実施する計画)
各登録クラブにおいては、指導者研修会への参加と、公認指導員、公認準指導員の資格取得を進めるようお願いいたします。
- (ロ) 継続的な活動として、特に少年少女に奉仕の気持ちが育つように、当連盟主催各競技会、大会の開催時に「海浜、湖岸及び会場清掃運動」を指導していますが、各登録クラブにおいても、日常の活動の中で、「海浜の清掃運動」を柱に、引続き社会貢献と環境保護の気持ちを指導して頂くようお願いいたします。

3. 普及と広報関係部門

(1) 普及活動事業(広報委員会/普及渉外委員会/競技委員会)

- (イ) 国際交流競技会やミキハウスカップその他各水域での普及大会の開催時等の機会を捉えて、地元各都道府県、関係市町村等地方自治体、教育委員会等の当局への広報、陳情活動を行い、当連盟の活動への理解をお願いし、競技会開催の後援、協賛、支援の要請を行います。
- (ロ) 当連盟の登録クラブがジュニアセーラー指導のため主として使用している艇であるOP級、レーザー級、シーホッパー級等の各クラス別協会とも連携を強化して、各艇種の普及と競技会への多数の参加によるジュニアヨットの普及活動に努力します。
又、各登録クラブで最も多く使用しており、当連盟主催の競技会でも最も参加艇数の多いOP級のクラス別協会である日本OP協会とは特に連携を緊密にして競技会の円滑な開催とジュニアヨットの普及を考えて行きたいと思っております。
- (ハ) B & G財団に対し、その傘下の海洋クラブの国際交流競技会やミキハウスカップその他各水域での普及大会への参加の呼び掛けをして頂くよう働きかけ、協力関係を促進します。
- (二) 連盟ホームページを充実させて、連盟本部からの情報提供や正会員、登録クラブからのイベント報告などをタイムリーに掲載出来るよう引き続き努力します。

(2) 出版事業等(広報委員会)

(イ) 機関誌「ユースセーリング」の発行

編集委員会を定期的に開催し、内容の充実と定期発行(年2回、9月・3月)を継続目標とします。

従来は「ユースセーリング」を正会員と登録クラブへ一定の部数を送付していましたが、今後は、各登録クラブ所属のジュニアセーラーの一人ひとりに行き渡るように、提出頂いた名簿に応じた部数を送付するように対応します。

(3) 競技会の開催事業(競技委員会)

(イ) 国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012

5月3日(木・祝)～6日(日) 東京都若洲ヨット訓練所で、2020年夏季オリンピック・パラリンピック大会の東京招致支援活動の一つとして、「2020東京オリンピック・パラリンピック招致ウィーク」の中での競技会として、競技会期間前後も含めいろいろなイベントを企画して開催予定です。

(ロ) ジュニアヨット国際親善大阪レガッタ(ミキハウスカップ大阪2012)

本年初めて大阪でも国際親善レガッタ開催を企画し、9月23日(日)大阪市大阪北港ヨットハーバーで開催を予定し、前日22日(土・祝)にもイベントを企画する計画です。

(ハ) 第22回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ(ミキハウスカップ東京2012)

本年度は、上記のように大阪でもミキハウスカップを開催することから、10月14日(日)に東京都若洲ヨット訓練所で開催予定です。

(4) 諸外国との親善交流事業(普及渉外委員会/競技委員会)

(イ) 5月3日(木・祝)～6日(日) 東京都若洲ヨット訓練所で開催予定の国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012に7ヶ国より外国選手を招待し、国際交流を予定します。

(ベルギー、デンマーク、イギリス、イタリア、韓国、タイ、シンガポール、ニュージーランド、オーストラリア、ドイツ、アメリカの中より予定)

(ロ) 9月23日(日) 大阪市大阪北港ヨットハーバーで初めて開催のジュニアヨット国際親善大阪レガッタ(ミキハウスカップ大阪2012)と10月14日(日) 東京都若洲ヨット訓練所で第22回ジュニアヨット国際親善東京レガッタ(ミキハウスカップ東京2012)をそれぞれ開催し、より積極的に在日大使館、外国学校に働きかけて選手として、或いは一般の外国人のヨットの体験試乗会等を含め国際交流を予定します。

(ハ) 海外セーリング研修派遣を通して国際交流を図ります。

各登録クラブからジュニアセーラーを数名推薦頂き、連盟が往復旅費等を負担し、現地ではホームステイ、練習・レース参加、社会見学等の海外研修をするプロジェクトに関しては、予算措置、受け入れ先等を含め具体的な検討を開始します。

又、本年度も、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012の国内クラブ対抗レースの特別賞として、参加クラブの中からクラブを選出して、そのクラブ

の競技会参加選手を、連盟が費用を援助して、海外セーリング研修に派遣して交流を深めます。

更に、ミキハウスカップ大阪2012及びミキハウスカップ東京2012の両レガッタそれぞれの特別賞として、参加クラブの中からクラブを選出して、そのクラブの大会参加選手を、連盟がその費用を負担して、関東水域OP連絡会が毎年タイ王国で実施している「タイクリニック」に参加させて派遣し、タイ王国の選手達との交流を図ります。

(5) ジュニアヨットクラブ安全対策事業(指導育成委員会／普及渉外委員会)

(イ) 5月3日(木・祝)、国際交流日本ジュニアヨットクラブ競技会2012の開会式後に参加選手、指導者・保護者に対し、特に熱中症対策を含めての安全講習会を実施します。

(ロ) 平成25年2月開催予定の通常総会時に指導者研修会を実施しますが、その機会に、併せて安全講習会も実施します。

以上